

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束の廃止に向けて、物理的な拘束の廃止を中心として検討しているが、心理的拘束の廃止等にも目を向け取り組んでいく必要がある。	物理的な身体拘束の廃止のみならず、スピーチロックやドラッグロックの状況把握、廃止に向けた取り組みを実施する。	研修等を通じて身体拘束の定義をより広義に捉え、ホームでの状況を事例等を交えながら認識していく。また身体拘束廃止マニュアルの改訂に取り組んでいく。	6ヶ月
2	8	権利擁護に関する制度について、玄関前に冊子を置くなどして、ホームを訪れる者等への周知を図っているが、制度理解については、一部のスタッフのみしか把握できていない状況である。	入居者、あるいは家族、また地域の住民等からの相談にて、全スタッフが基本的な制度の概要だけでも情報提供できるようにしていく。	現在、入居者の後見人を担われている方の協力を得ることで、定期的に勉強会を実施し、より詳しい制度の理解を深めていく。	6ヶ月
3	10	運営に関してご家族様に関わっていただく機会が少なく、また当ホームでの入居者の生活状況についても、お伝えする機会が少ない。アンケート結果からもその課題が浮き彫りになっている。	当ホームの運営において、よりご家族様の意向が反映できるように取り組む。 入居者の生活状況をご家族様にお伝えし、安心いただけるよう取り組む。	運営推進会議へのご家族様の参加をより積極的に呼びかけていく。 行事の様子や日常の様子を写した写真を館内に貼り、面会者にご覧いただけるようにする。また定期的にホームだよりの発行を行なっていく。	1年
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。